

宮古市教育委員会だより

～郷土を誇り次代につなぐひとづくり～

令和4年 1月1日号

No.20

発行

宮古市教育委員会

〒027-8501

宮古市宮町一丁目1番30号

☎ 0193-62-2111

第35回宮古サーモン・ハーフマラソン大会特別大会開催！

令和3年11月14日（日）、宮古運動公園陸上競技場を主会場に第35回宮古サーモン・ハーフマラソン大会特別大会が開催されました。

当日は、2kmの部（ファミリー）、5kmの部、10kmの部、ハーフの部の4種目を行い、総勢970人のランナーが白浜の海風を浴びながら、各コースを駆け抜けました。

例年、ゲストランナーとして参加いただいている青山学院大学陸上競技部、東京を拠点にランニングトレーナーとして活躍する鳥光健仁とりみつたけのりさんに加え、今年は東洋大学陸上競技部の皆さまにもご参加いただきました。

コロナ禍での開催にあたり、参加者を岩手県内の方のみとし、スタート時の密を回避するため、時間差でスタートする「ウェーブスタート」を採用するなど、さまざまな対策を実施しました。



マラソンを楽しむ参加者

コロナ禍で多くのマラソン大会が中止になる中、日ごろの練習の成果を発揮できる場であったことから、走り終えた参加者からは、笑みが見えました。



青山学院大学陸上競技部



東洋大学陸上競技部



懸命にゴールを目指す参加者

大会の参加者には、大会名にちなみ、鮭をメインにしたお弁当が配られました。

「疲れたけど、気持ちよかった」「また、来年も参加したい」「来年は、是非、通常規模での大会の開催を！」との声が聞かれるなど、参加者にとって充実した大会となりました。



ランニングトレーナー 鳥光健仁さん

☎ 問い合わせ 生涯学習課(68-9120)

令和2・3年度 宮古市教育委員会指定 学校公開研究会

宮古市では、学校教育の充実と学力の向上を図るために、各校の児童生徒及び地域の実態に基づいて研究主題を設定し、授業研究会を中心とした研究を推進してその成果の普及に努めています。

今年度は田老第一小学校、河南中学校、新里小学校の3校で、参会者を宮古管内の小・中・高等学校の先生方に限定して公開研究会を開催しました。

田老第一小学校では、算数科の授業において、自分の見通しに従って考えを進め、友達と考えを交流する活動を充実させることを通して、児童が主体的に学び、考えを深めることができるように研究を推進してきました。

河南中学校では、全ての教科等の学習において、授業をユニバーサルデザイン化（視覚化・焦点化・共有化）することで、どの生徒も「わかる」「できる」を実感することのできる授業を目指して研究を推進してきました。

新里小学校では、生活科・総合的な学習の時間において、地域の人材や物的資源を生かしながら、児童の思いや願い、課題意識に基づく追究活動を充実させることで、自己を表現する子どもの育成を目指して研究を推進してきました。

3校とも、これまでの研究成果を活かした授業を提案するとともに、児童生徒が意欲的に学習に取り組む姿を見せてくれました。さらに、1人1台の学習者用タブレット端末を使って、自分の考えを整理したり、友達と意見を交流したりする姿も見られ、教育のICT化が宮古市でも着実に進んでいることを感じることができました。

授業後の研究会では、各学校の先生方による活発な議論が行われ、有意義な公開研究会とすることができました。

9月24日(金)

田老第一小学校 学校公開研究会

【研究主題】

主体的に学び、考えを深める児童の育成
～算数科における自立的・協働的な学習を通して～



11月2日(火)

河南中学校 学校公開研究会

【研究主題】

かかわりあいを大切にし、認め合い、学び合う生徒の育成
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を通して～



11月16日(火)

新里小学校 小規模・複式指導研究会

【研究主題】

自己を表現する子どもの育成を目指して
～生活科・総合的な学習の時間における探究的な学習を通して～



 問い合わせ 学校教育課(68-9118)

心がつながった沖縄県多良間村と宮古市の子どもたち！ ～リモートによる交流学习～

令和3年11月8日に多良間村交流事業が行われました。この事業は昭和53年から始まり、今年で33回目となりました。これまでは、多良間村と宮古市の児童生徒の代表が相互訪問し、交流学习や市内での体験学習を行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、相互訪問は行わずにリモートでの交流となりました。

宮古市からは、山口小学校の6年生29人、田老第一小学校の5・6年生33人が代表校として参加し、多良間小学校の5・6年生27人とお互いの地域の特色について発表し合いました。

多良間小学校の子どもたちは、沖縄県の伝統芸能であるエイサーを披露しました。また、多良間村の気候や自然環境、地域ならではの文化や産業などを説明しました。山口小学校と田老第一小学校の子どもたちは、多良間小学校の発表に目を輝かせ、自分たちの住む地域との違いに驚いていました。

学習後の子どもたちからは、「冬でも暑い日があることに驚いた」「地域によって踊り方が違うことに気付いた」「交流してお互いのことをよく知ることができてよかった」「コロナ禍でリモートになったけれど、学年全員で交流することができてよかった」などの声が聞かれました。リモートによる交流ではありましたが、多良間村と宮古市の子どもたち同士の心がしっかりとつながり、お互いの地域の良さを知ることができた有意義な時間となりました。

【山口小学校の発表】

山口小学校は、宮古サーモン・ハーフマラソン大会などの宮古市の特色ある主な行事や、震災後の宮古市の取り組みなどについて、子どもたちが作成したパネルを見せながら分かりやすく紹介しました。また、伝承活動として学校で取り組んでいる郷土芸能の「黒森神楽」を披露しました。伝承委員会の子供たちが中心となり、力強く迫力ある太鼓の音に合わせながら、堂々と表現することができました。



郷土芸能「黒森神楽」を披露

【田老第一小学校の発表】

田老第一小学校は、プレゼンテーションソフトを使いながら、5・6年生全員が発表しました。6年生は、トラウトサーモンやドンコ、ホヤなど、宮古市の有名な海産物について紹介しました。また、気候や地形の特徴をもとに、田老地区が海と山に囲まれた自然豊かな地域であることも伝えることができました。5年生は、津波の歴史や震災当時の様子、復興に向けた町づくりの様子などについて詳しく説明しました。



田老地区の良さや取組を紹介

 **問い合わせ** 学校教育課(68-9118)

第 23 回冬季企画展「復興発掘調査展－古代から近現代－」

教育委員会では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災からの復興事業に伴う発掘調査を 24 箇所で行ったところ、今まで知られていなかった宮古の歴史が次々と明らかになってきました。本企画展ではその中でも古代から近現代の遺跡にスポットをあてて紹介しています。

宮古市において遺跡がほとんど確認されていない空白の時代である古墳時代の土器が初めて出土した日の出町Ⅱ遺跡、奈良時代の大規模な集落であることが分かった津軽石大森遺跡、戦時中の防空壕跡が見つかった赤前Ⅴ柳沢遺跡など、復興発掘調査によって、時代を越えて躍動する先人たちの生活がより鮮明になってきました。

さらに 10 年間の復興発掘調査の大きな意義ともいえる発掘に従事した全国からの派遣職員との人的な交流のほか、講演会や交流展示などの様々な交流についても紹介しています。

○開催期間

12 月 4 日（土）から 2 月 20 日（日）まで

○開催会場

崎山貝塚縄文の森ミュージアム企画展示室



奈良時代（1,300 年前）の大規模な集落である津軽石大森遺跡の発掘調査風景（平成 26 年）

 **問い合わせ** 文化課(65-7526)

芸術の秋を彩る 令和 3 年度「第 2 回宮古市所蔵絵画展」開催

令和 3 年 11 月 3 日（水）、崎山公民館多目的ホールで令和 3 年度「第 2 回宮古市所蔵絵画展」を開催しました。

宮古市に寄贈された絵画は現在 100 点以上を数え、市内の公共施設などに展示、保管されています。崎山貝塚縄文の森ミュージアムにはそのうち 74 点の絵画が収蔵されており、定期的に絵画展を開催するとともに、同館エントランスホールでの入替え展示も行っています。

今回の絵画展では、宮古市^{とよかわかずこ}出身、パリで活躍した豊川和子氏の作品 11 点をはじめ、重茂出身で彫刻家としても高名な吉川保正氏、市議会議員を務め洋服デザイナーとしても活躍した関川喜佐雄氏、宮古美術協会初代会長の増坂勲氏など、宮古市出身の画家による作品を中心に 25 点を選定し市民の皆さまに鑑賞していただきました。

会場は色とりどりの油絵や水彩画で彩られ、来場された 50 名を超えるお客様の目を楽しませていました。

「このような素晴らしい絵画が宮古にあるとは知りませんでした」「宮古には絵画鑑賞できる施設がないので、このような企画はとてありがたい」などの感想を多くいただき、芸術の秋を感じるひと時となりました。



絵画展の様子

 **問い合わせ** 文化課(65-7526)

埋蔵文化財センター主催「おでんせ発掘おしごと体験2021」を開催しました

この体験イベントは、市民の皆さまに埋蔵文化財への興味・関心を高めてもらうために2016年から行っているもので、今年は発掘の“おしごと”として、縄文土器を組み立てる接合体験や、砂の中から土器や石器を探しだす発掘体験等のコーナーを設けました。

土器の接合体験コーナーでは、うまく組み立てられず悪戦苦闘している子どももいましたが、無事に出来上がると、喜びもひとしおで、見守った大人たちから歓声が起こりました。また、完成した方の中には、土器を持ち、記念撮影を行う方もいました。

2日間のイベントで、計90の方が来てくださいました。



土器接合体験の様子

 **問い合わせ** 埋蔵文化財センター(65-7527)

北上山地民俗資料館のフェイスブックページを開設しました!

北上山地民俗資料館では、ホームページで常設展や活動の様子を紹介しています。あわせて、国の重要有形民俗文化財「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」のデータベースや実測図などの資料も公開しています。

このたび、公式フェイスブックページを開設しました。開催中のイベントや企画展の様子のほか、当館の日常業務



など、さまざまな情報を発信しています。公式フェイスブックページへは、左のQRコードのほか、当館ホームページからアクセスできます。アドレスは「<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/>」です。また、宮古市ホームページのトップページの「宮古市 Face book」からも閲覧できます。どうぞご覧ください。

 **問い合わせ** 北上山地民俗資料館(76-2167)

教育委員会議 開催結果

宮古市では、毎月1回以上、教育行政に関して重要な事項を審議する「教育委員会議」を開催しています。

令和3年7月から同年11月までの開催状況、主な審議内容等は下記のとおりです。

◆ 7月定例会(7月19日)

令和3年度宮古市一般会計補正予算(第7号)に関する臨時専決処理に関し承認を求めることについて

◆ 8月定例会(8月25日)

宮古市立学校の廃止に関し議決を求めることについて

◆ 9月定例会(9月16日)

令和3年度宮古市一般会計補正予算(第9号)に関する臨時専決処理に関し承認を求めることについて

◆ 10月定例会(10月25日)

教育財産の用途廃止に関し議決を求めることについて

◆ 11月定例会(11月22日)

宮古市立小中学校に就学すべき者の学校の指定に関する規則の一部を改正する規則

教育委員会定例会議は、どなたでも傍聴することができます。開催日、会場は、宮古市ホームページ(http://www.city.miyako.iwate.jp/kyouiku/kyoikuin_kaigi.html)でお知らせします。

 **問い合わせ** 教育委員会総務課(68-9114)

今年度の宮古市学校保健会・宮古市PTA連合会・宮古市教育委員会による三者合同大会「みやこ^{サン}3ライズ・ミーティング」は、新型コロナウイルス感染症対策のため参集形式の大会開催は中止し、昨年度に続き本号紙面にて各団体の活動を紹介します。

教育委員会からは宮古市の地域と学校が連携して子どもたちの学びや成長を支える取り組み（地域学校協働活動）から津軽石小学校のミシン指導補助と津軽石さんさ踊りの活動、PTA連合会からは鎌ヶ崎小学校のコロナ禍での活動実践、学校保健会からは花輪中学校での健康観察と生徒たちの取り組みについて紹介します。

地域学校協働活動

津軽石小学校の地域学校協働活動① ミシン指導補助

津軽石小学校でのミシン指導補助は今年で4年目を数え、現在は2人のボランティアが家庭科の授業の中で子どもたちのミシン学習をサポートしています。



ミシンの使い方について指導を受ける子どもたち

ボランティアのお二人に活動についての感想を尋ねると「指導した5・6年生の子どもたちが『指ぬき』を使った裁縫をできるようになって良かった」「この活動がきっかけで子どもがクッションのほつれを直せるようになった姿から、子どもたちの成長が感じられて嬉しかった」など、活動の充実ぶりに満足げでした。

先生方や子どもたちの声からも、ボランティアの方々との信頼関係や雰囲気の良いさが伝わりました。



ミシン縫いの下準備もサポート

津軽石小学校の地域学校協働活動② 津軽石さんさ踊り

津軽石には、約400年の歴史をもつ「津軽石さんさ踊り」という郷土芸能があります。

津軽石小学校では昭和45年から津軽石さんさ踊り保存会と連携し、保存会の舞踏指導などを通して子どもたちに地元の芸能や文化を伝えていく活動を行っています。

津軽石さんさ踊り保存会たてしたみつとしの館下光利会長は、講話を聞いた子どもたちから「なぜ郷土芸能があるのか」と質問されると、「津軽石は何度も災害に見舞われているが、それでも皆で一生懸命生きてきた。津軽石さんさのように皆で一緒に1つのことをやるのが地域の象徴となり、友達との絆になる」と力強く答えました。



さんさの歴史を伝える館下会長

子どもたちは「活動の中で細かいところまで学び、下級生にも詳しく教えられようになりたい」と感想を語っていました。

館下会長は「先人たちから受け継いだ津軽石さんさ踊りを、自分たちも未来に繋げていきたい。楽しくおもっつぐやるのが一番！」と熱意を込めて話していました。

 **問い合わせ** 生涯学習課(68-9119)

宮古市PTA連合会

令和3年度 鉾ヶ崎小学校PTA 活動実践

鉾ヶ崎小学校PTAは、各学年及び各地区から選出された役員会・地区委員会・教養委員会・広報委員会・健康委員会・各学年委員会の組織のもと活動を続けています。

この2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、PTA総会等の会議や講演会等を中止せざるを得ない状況になり、各学年のPTA行事すらもできない時期がありました。

そのような状況下であっても、子どもたちのために、その時にできる活動に絞り、PTA活動を積み重ねてきました。

役員会では、環境整備作業を計画し、保護者、児童、教職員が共に校庭の草取りや校舎の窓ふきに取り組みました。



秋の環境整備作業・窓ふき

地区委員会では、児童の安全を確保するために地区巡視や通学路点検を継続して実施しました。

教養委員会では、家庭教育学級として「親子で楽しむヨガ講座」の企画と運営を行いました。

健康委員会では、心肺蘇生法講習会を開催したほか、小中合同学校保健委員会も開催予定です。

広報委員会では、年間2回のPTA会報発行に向けて編集を行っています。



PTA常任委員会の様子

鉾ヶ崎小学校PTAでは、今後も子どもたちを支える活動を推進してまいります。

「コロナ禍におけるPTA活動へ感謝」

宮古市PTA連合会 会長 **浜田 涼**



日頃より宮古市PTA連合会への深いご理解とご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスにより、各小中学校及び単位PTAにおける各種行事や活動が大きく制限され、子ども、親、地域、先生方との交流に大きな支障が出ました。その結果として子どもたちの心身の成長への悪影響があるのではないかという不安を抱いているところです。

そのような制限があるなかにおいても、各小中学校や単位PTAの活動を耳にいたします。感染防止を徹底的に図り、できることを模索し続け、活動を行っている各小中学校、各単位PTA、それを支える親御様方、活動の中心となる児童生徒の皆さん、そして先生方の心の強さを垣間見た次第であります。

当PTA連合会も新型コロナウイルス蔓延防止のため、満足のいく活動が行えているとは言えません。しかし、関係団体が子どもたちの成長を考える「みやこ^{サン}3ライズ・ミーティング」の取り組みは大きな意義があると思いますので、この活動が、各ご家庭、地域、先生方との交流のきっかけとなれば幸いです。

今後も当PTA連合会は、各PTA活動をはじめとする、子どもたちの成長の支えとなるため尽力していく所存であります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



問い合わせ

宮古市PTA連合会事務局
鉾ヶ崎小学校(62-6043)

令和3年度 青少年健全育成標語コンクール 結果発表

賞	単位PTA	氏名	作品	学年等
入賞	山口小父母と教師の会	川村知香	見ないふり あなたの心は 見ているよ	小4年
入選	千徳小PTA	関口稀々花	伝わるよ マスクしてても やさしさが	小3年
入選	千徳小PTA	加藤未久	やれること みんなのためにも 自分から	小5年
入賞	第一中父母と教師の会	佐藤心音	大丈夫 その挑戦は 無駄じゃない	中2年
入選	第一中父母と教師の会	坂下ひろな	努力する 君の笑顔に 金メダル	中1年
入選	宮古西中PTA	山本羅芽	認め合い そこから生まれる その笑顔	中3年
入賞	河南中PTA	工藤徳恵	あいさつは 無限に広がる まほうの言葉	PTA
入選	磯鶏小PTA	小野純治	「僕がやる」 黙って見守る 親の愛	PTA
入選	花輪小PTA	豊間根麻衣	ただいまと 笑顔で帰宅 ほっとする	PTA
入選	新里小PTA	澤口嘉治	つらくても ゆっくりでもいい もう一步	PTA

宮古市学校保健会

生徒と共に育む健康な生活と体づくり

宮古市立花輪中学校の実践から

ICTを活用した「健康観察」

生徒に1人1台のタブレットが導入された現在、花輪中学校では日々の学習活動だけでなく、毎日の健康観察にもタブレットを活用しています。

授業でも使用しているアプリ「ロイロノート」で、出欠・体温・健康の状態・コメントが入力できるノートを作成しました。生徒は毎日登校するとタブレットを開き、自分の健康状態を入力します。入力したデータは一覧となり、教師用のパソコンで全職員が確認できます。養護教諭は一覧をプリントアウトし、日々の健康観察簿と共に保存しています。

以前は生徒一人ひとりに「家庭健康観察表」を配布し、毎日家庭での検温と体調に関する項目のチェックをするようにしました。徐々に用紙を忘れたり、検温せずに登校したりする生徒がみられるようになり、回収率が下がってきていました。

しかし、タブレットを活用したことで、生徒は意欲的に自らの健康チェックを行い、確実な健康観察ができるようになりました。回収率も上がり、担任や養護教諭だけでなく、全職員が生徒の健康状態を自分のパソコンで確認できることも利点といえます。

さらに、気になる症状がある生徒はコメント欄に記入するため、生徒のより詳しい状況を知り、個別に指導する機会を得ることもできています。



登校後、タブレットで健康観察入力中の生徒

「自分にあった休養を」

宮古市学校保健会

会長 豊島 喜美子

新型コロナウイルスの流行により、体調の悪いときは人との接触を避け、ゆっくり体を休めることが推奨されるようになりました。

体温の変化は客観的なものですからわかりやすいのですが、特にまじめな人ほど、自分自身の体調の変化に気づくことが難しいものです。いつもよりだるい、元気が出ない時は、無かったことにせず、思い切って休んでみましょう。

未知の感染症の流行は、常に緊張を強いられます。私たちは、震災の時に、様々なリラックス法を教えていただきました。自分に合うものをもう一度試してみましょう。



手指消毒スタンドを製作中の様子と完成品

生徒製作「手指消毒スタンド」大活躍!!

総合文化部では、生徒がテーマを決めて研究に取り組んでいます。今年は新型コロナウイルス感染予防のために、全校生徒の感染対策への意識を高めようと「足踏み式手指消毒スタンドの製作」に取り組みました。

まずは市販のスタンドの仕組みを調査しました。そして、自分たちが加工しやすい材料を検討し、実際にスタンドを試行錯誤しながら製作し、見事に完成させました。

完成したスタンドは生徒昇降口に設置しました。仲間が製作したスタンドに、他の生徒も興味深々、積極的に手指消毒をしていました。使用頻度が高くなり、不具合が生じたときには、総合文化部の生徒が検証し、よりよいスタンドに改造しました。

「自ら考えて、自らの手で創り出す」その活動が、「自分の命を自分で守る」という、感染予防への全校の意識を高めてくれたと思います。



問い合わせ

宮古市学校保健会 事務局

宮古市立花輪中学校 0193-69-2034